



Salicus Kammerchor サリクス・カンマーコア主催

ワークショップ『ネウマ的にバッハを歌うとは』

～グレゴリオ聖歌からフランドル・ポリフォニーを経て J. S. バッハまで～

講師：櫻井元希（Salicus Kammerchor 主宰）

渡辺研一郎

日時：2016 年 4 月 23 日（土）10-17 時

会場：えびらホール

（東急池上線・大井町線 旗の台駅東口より徒歩 6 分。

プライベートホールのため、詳しい場所はお申込み後のお知らせとなりますことをご了承ください。）

定員：16 名

料金：	一般	9,000 円
	チケット付き （第 2 回定期演奏会）	12,000 円
	サポート会員	5,000 円
	学生	7,000 円



“Ecce advenit dominator Dominus” Einsiedeln codex 121



J. S. Bach “Gratias agimus tibi” autographe Partitur

私たちサリクス・カンマーコアは、「バッハをバッハ足らしめたものは何か」を一つのテーマとして活動しています。バッハがいかにしてその多様かつ個性的な音楽様式に至ったのか。それを探るために西洋音楽の歴史を遡るだけ遡った結果、私たちはグレゴリオ聖歌にたどり着きました。中世のグレゴリオ聖歌の歌唱法は、現代の私たちからは想像もつかない程豊かで繊細な歌心に満ちていました。それを書き記したものが「古ネウマ」と呼ばれる記号です。

一日掛かりのこのワークショップでは、まずこの古ネウマからスタートし、グレゴリオ聖歌の歌い方を学びます。午後にはそのグレゴリオ聖歌をもとにイザークが作曲したポリフォニー（多声音楽）に取り組み、グレゴリオ聖歌の歌い方をいかにポリフォニーに生かすかを学びます。最後にそれが、バッハを演奏する上でどのような意味を持つのか、実際の楽曲を歌いながら実感していただきます。

理論もさることながら、実際に歌ってみて「ネウマ的にバッハを歌う」ということがどういうことなのか、体感していただける機会となっております。

スケジュール概要：

10-12 時 『古ネウマでグレゴリオ聖歌を歌う』（担当：渡辺）

12-13 時 —お昼休憩—

13-15 時 『フランドル・ポリフォニーを歌う』（担当：櫻井）

15-17 時 『J. S. バッハを歌う』（担当：櫻井）